

県立自然史博物館設立に関わるこれまでの経緯と今後に向けて

柴 正博



平成 15 年度から始まった「自然学習資料保存事業」
静岡県教育委員会三島分室



平成 16 年 8 月に開催した「ミニ博物館」

はじめに

NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワーク（略称：NPO 自然博ネット）の前身である静岡県立自然史博物館推進協議会（略称：自然博推進協）が結成されてからすでに 17 年、NPO 自然博ネット設立からも 10 年が経ちましたが、自然学習資料センターの静岡南高校への校舎への移転を契機に標本収蔵を中心に調査研究と教育を重視する新拠点、すなわち県立自然史博物館の設置が現在、具体的に進もうとしています。

ここでは、「静岡県に県立自然史博物館を！」を合言葉に進めてきた私たちの活動を簡単に振り返り、今後の自然史博物館設立のためにさらなる提案を行いたいと思います。

自然博推進協から NPO 自然博ネットへ

静岡県では、県立美術館が建設された昭和 61 年（1986 年）度から県立博物館整備に向けた検討が行われてきましたが、平成 6 年度に自然系博物館整備の方向性が示されました。翌、平成 7 年度に策定された「静岡県新世紀創造計画」において自然系博物館整備が主要施策として位置づけられました。しかしその後、自然系博物館については県内標本の所在と評価調査などが行われたにとどまっています。

平成 6 年 12 月 3 日に、後に自然博推進協の代表となる伊藤二郎氏の静岡新聞への投稿文が契機となって、静岡県内の自然研究グループの方々が伊藤氏のもとに集まり、自然博推

進協が平成 8 年 1 月に結成されました。自然博推進協では、県に対して県立自然史博物館設立に関する要望書や提案書を提出すると同時に、会員相互の共通認識や相互交流を高めるために、「推進協通信」という機関紙の発行や討論会、自然博物館の視察・見学、自然観察会や展示会の開催などを行いました（<http://www.spmnh.jp/hpnature/>）。また、自然博推進協では、静岡県の自然についての普及書である「しずおか自然図鑑」（平成 13 年 4 月静岡新聞社発行）を出版しました。

静岡県では平成 13 年になって、「自然学習・研究機能検討会」という自然系博物館の設立に関する検討会が開催されました。この検討会では、15 人の多分野の委員により自然系博物館の機能や必要性に関して検討が行われ、平成 14 年 10 月に最終報告書が県知事に提出されました。その中には、自然学習・研究の拠点施設の必要性とそのあり方、自然系博物館の整備計画について詳細に記されていました（<http://www.spmnh.jp/hpnature/intro/02kento01.htm>）。

この報告書に掲載された自然系博物館の整備計画の中で、緊急事業として散逸が危惧される標本・資料の収集・整理があげられていました。この事業については、平成 15 年度から「自然学習資料保存事業」として、仮収蔵施設への標本の収蔵と整理・登録が実際に行われることになりました。自然博推進協は、この事業を受託するためにその組織を発展的に解消し、平成 15 年 3 月に池谷仙之氏を理事長として新たに「NPO 法人静岡県自然史博

物館ネットワーク（略称：NP0 自然博ネット）」として再出発することになりました。

NP0 自然博ネットは、これまでの自然博推進協の活動をより積極的に行うとともに、「自然学習資料保存事業」を県から受託して、平成 15 年度から仮収蔵施設となった静岡県教育委員会三島分室で事業を開始しました。自然学習資料保存事業は、平成 17 年度から静岡市清水区の旧清水保健所の庁舎に移転して継続され、平成 20 年度からその施設は「静岡県自然学習資料センター」となりました。平成 15 年度から行われているこの事業も現在 10 年が経ち、収集された標本数は約 30 万点におよび、そのうち整理・登録された標本は約 8 万点になります。

NP0 自然博ネットでは、県から受託した資料保存事業以外に、NP0 独自で季節ごとに自然観察会や施設見学、講演会、会報として「自然史しずおか」を発行し、夏休みにはミニ博物館や県自然学習資料の収蔵コレクション展などを開催してきました。また、平成 19 年 9 月から平成 22 年 3 月まで静岡新聞日曜版に「しずおか自然史」のコラムを毎週連載し、それらをまとめて「しずおか自然史」（平成 22 年 10 月静岡新聞社発行）を出版しました。

平成 22 年度からは、自然学習資料保存事業で収蔵された標本を活用して、積極的に展示物を作成して公開する標本活用事業が始まりました。具体的には、自然学習資料センターでの常設展の設置や特別展の開催、出前博物館や他施設での出展活動などで、これらの活動もボランティアの協力を得て展示物を作成して行っています。

平成 22 年 11 月には NP0 自然博ネットの理事長だった池谷仙之氏が逝去され、12 月には自然博推進協の代表だった伊藤二郎氏が逝去され、また昨年 11 月には理事の杉山恵一氏が逝去されました。3 人とも「県立自然史博物館ができるまでは死ねない！」と設立を切望し推進に努力してこられた方だったので、念願だった県立自然史博物館を見ることなく亡くなられたことは、残念でなりません。

静岡県立自然史博物館の設立に向けて

平成 23 年 2 月の県議会で、「自然史資料を活用した新たな活動拠点の整備について」という質問に川勝平太県知事が答弁して、現在

所有している自然史資料について収集や保管をするだけでなく、自然について学べるように活用できる機能を備えた、研究活動、生涯学習などに役立つ拠点となるように検討し、さらに活動拠点となる施設については再編が予定されている静岡南高校の校舎を活用することを検討していることが表明されました。

その後の平成 24 年度の静岡県予算には、静岡南高校の校舎を自然史資料を活用した活動拠点とするための移転改修設計費が計上されて、平成 25 年度～ 26 年度に改修工事を行い、平成 26 年度中に開設することになり、県企画広報部ではこの 1 年間具体的な設計に関わる問題等が検討されてきました。

この自然史資料を活用した新しい活動拠点は、現在清水区辻にある自然学習資料センターが移転するというだけでなく、これを契機に自然史資料の収集保管、調査研究、展示・情報発信、教育普及という本来の博物館がもつ 4 つの機能を充実させることも図られます。このことは、移転整備を契機に自然史博物館としての施設面が整備され、近い将来に学芸員が働く博物館という機関がこの施設にできることを意味します。

平成 14 年の自然学習・研究機能調査検討会報告では、自然史博物館の二段階整備計画が提案されています。この報告書が提出されてから 10 年、すでに私たちはこの第 1 段階の、①の散逸する危惧のある標本・資料の収集・整理は自然学習資料の収集保存事業で、④インターネットを使った収蔵標本や調査資料等の公開と⑤プレ博物館活動と県民意識の醸成についてはその標本活用事業において実施しています。残る、②のスタッフの充実と人的資源の活用と③の調査研究・情報集積の推進を行い、⑥の第 2 段階の実施計画の策定準備を行う時期にすでにきています。

そのためには、スタッフの充実、すなわち学芸員を配置して調査研究活動を行い、自然史博物館の整備計画を具体的に始めるべきです。そして、学芸員が中心になって博物館基本構想を策定して、より発展させた組織と施設を備えた静岡県立自然史博物館を早期に設立させることが重要で、私たちはそれを強く希望し、その実現のために努力したいと思います。